

13-

6-0068

0490

外 山 新

秋

外務省

外務省

大正十年三月編

外務省内規類集

原本

大正十年三月

外務省

外務省

小村參事官

性

秋

トス

外務省の内規類集の目次、編了本年一月十日迄を以て  
 編了の本有る各事の内規及び在外各事の内規を以て付録  
 冊外事項の内規、外務省の他省官署の事務規則、米、十五日  
 (大正)迄の各事の内規、外務省の事務規則、米、十五日

外務省

6-0068

0491

3  
外 山 務

緒言

近時外交機關ノ擴張省務ノ膨脹ハ參事官會議ノ設置ト相俟テ内規類集編纂ノ要ヲ促スコト切實ナルモノアリ乃チ參事官附内田領事官補ヲ主任トシ本務ノ傍之カ編輯ニ着手セシメ頃者漸ク其ノ稿ノ成ルヲ告ケ茲ニ外務省内規類集ト題ス本書ハ大正十年三月現行外務省人事、文書、會計其ノ他一般省務ニ關スル事項ニシテ法令トシテ公表セラレサル訓令、決定、通達等ノ内規類ヲ輯録セルモ其ノ範圍ノ廣汎ニシテ事項ノ細微ナル素ヨリ是カ完璧ヲ期スルハ至難トスル所或ハ幾分ノ遺漏誤謬ナキヲ保セス此等ハ當路關係各官ノ指摘ニ俟テ漸次修補スル所アルヘク幸ニ執務參考ノ一端タルヲ得ハ編者ノ幸慶之ニ過キス

大正十年三月

外務省參事官 小村 欣一

外 務 省

五内 郎 印

2  
外 山 務  
2. 外務省  
3. 参事官

3  
大正十年三月編纂

外 務 省 内 規 類 集

外 務 省 参 事 官 室

外 務 省

6-0068

0492

一本書の既成内訳類、各輯より  
 従て其ノ用ニテ等法ノ餘加ナキハ  
 事ナリナリ (用註)  
 一現至、於ニ效力如何ニ礼ナキ稍々  
 疑義アリテモ、各卷トシテ、格ナキ  
 ナリ、同助ナリ、各巻シ内訳、各其ツ  
 以、廢ニ付成、現ノ手續、ラ、廢ナリト  
 ナリ、而モ其ノ安身ノ行ヲ停止セシムル  
 ナリ、稀ナリナリ也

凡例

- 一 本書ハ大正十年三月現行外務省人事、文書、會計其ノ他省務ニ關スル事項ニシテ法令トシテ公  
 表セラレタル訓令、決定、通達等ヲ汎ク蒐輯シ以テ執務參考ノ一端ニ供セントスルモノ也
- 一 故ニ嚴格ナル意義ニ於テ或ハ内規ヲ以テ目スルニ難色アルモノモ往々ニシテ之ヲ採録シ又領事  
 官執務參考書ノ如キ既版書中ニ掲載セラレタル或種ノモノ例ヘハ直接通信ニ關スル事項ノ如キハ  
 官執務參考書ニ於テ採録アルヲ以テ殊更ニ之ヲ載録ヲ見合ハセタリ
- 一 本書ノ資料ハ總主官部局課下ニ保存セラレタル記録ノ外現行法規全書、外務省人事法規等ニ據リ  
 ナルモノ其ノ範圍ノ廣汎ナル若干ノ遺漏誤謬ナキヲ保セス此等ノ版ヲ重スルニ從ヒ修補スヘシ
- 一 編纂配列方ニ就テハ必スシモ制定年月ノ順序又ハ理論ニ拘泥スルコトナク専ラ閱覽索出ノ便ヲ  
 主眼トシ全編ヲ十四章ニ大別シ更ニ各章ヲ數節ニ細分セルモ題種多カラサル章下ニハ節ヲ省略セ  
 ル箇所往々アリ
- 一 卷頭ニ總、細ノ兩目次ヲ附シ其ノ索引ニ便セリ
- 一 細目次列記事項ノ下ニ年別ヲ註シ年別索引ニ代用セリ

凡例  
 本書ハ機密扱トシタルモ尙極密ニ屬スル事項ニシテ輯録ヲ見合ハセタルモノ不勅

大正十年三月

外務省參事官室

一行在

4x

一行在

凡例

- 一 本書ハ大正十年三月現行外務省人事、文書、會計其ノ他省務ニ關スル事項ニシテ法令トシテ公表セラレサル訓令、決定、通達等ヲ汎ク蒐輯シ以テ執務參考ノ一端ニ供セントスルモノ也
- 一 故ニ嚴格ナル意義ニ於テ或ハ内規ヲ以テ目スルニ難色アルモノモ往々ニシテ之ヲ採録シ又領事官執務參考書ノ如キ既版書中ニ掲載セラレタル或種ノモノ例ヘハ直接通信ニ關スル事項ノ如キハ徒ニ書冊ノ老大ヲ來ス嫌アルヲ以テ殊更ニ之カ載輯ヲ見合ハセタリ
- 一 本書ノ資料ハ各主管部局課下ニ保存セラルル記録ノ外現行法規全書、外務省人事法規等ニ據リタルモ其ノ範圍ノ廣汎ナル若干ノ遺漏誤謬ナキヲ保セス此等ハ版ヲ重ヌルニ從ヒ修補スヘシ

外務省

- 一 編纂配列方ニ就テハ必スシモ制定年月ノ順序又ハ理論ニ拘泥スルコトナク專ラ閱覽索出ノ便ヲ主眼トシ全編ヲ十四章ニ大別シ更ニ各章ヲ數節ニ細分セルモ題種多カラサル章下ニハ節ヲ省略セル箇所往々アリ
- 一 卷頭ニ總、細ノ兩目次ヲ附シ其ノ索引ニ便セリ
- 一 細目次列記事項ノ下ニ年別ヲ註シ年別索引ニ代用セリ
- 一 本書ハ機密扱トシタルモ尙極密ニ屬スル事項ニシテ輯録ヲ見合ハセタルモノ不尠

大正十年三月

外務省 参事官 室

外務省

●文官任用令上高等学校認定ニ関スル  
件ニ依リ認定諸学校

大正四年二月二十六日  
文部省告示第三十五号

大正四年文部省令第二號第一條ニ依リ文官任用令上  
認定ニシテル学校九ノ如シ

專門学校及專門学校ニ准テル学校

府縣	学校名	設立年月日	同上告示番号
東京府	私立中央大學	昭和三十七年一月一日	四
同	私立早稲田大學	同二、八、九	六
同	私立明治大學	同二、八、一六	七
同	私立專修大學	同二、八、一六	八
同	私立法政大學	同二、九、九	一六
同	元私立東京佛學校法律科	同二、八、九	五
外務省			
東京府	元私立東京法學校	昭和三十九、一、三	九
同	私立慶應義塾大學部	同二、九、九、一七	一八
同	私立日本大學	同三、八、一七	一八三
同	私立東洋協會專門學校	同三、四、一、九	三
同	私立東京慈惠會醫院醫學專門學校	同三、六、八、一五	一四一
同	私立日本醫學專門學校	同二、二、一九	二二
同	私立東京齒科醫學專門學校	昭和三十四、一〇、二六	二七
同	私立青森齒科醫學專門學校	同四、二、三、九	三〇六
同	私立東洋大學	同三、三、五、九	一四二
同	私立國學院大學	同三、四、一、四	二
同	元私立真宗大學	同三、三、六、三三	三六
同	私立宗敎大學	同三、三、一、一六	三三
同	私立天台宗大學	同三、七、六、一	一三七

6-0068

0495





同	私立臨濟宗大學	同四六二一〇	三三
同	私立佛敎專門學校	同四五五三三	一四八
同	<small>新嘉坡</small> 私立天學智山勸學院 <small>知山派</small>	同三四二一	七〇
大阪府	大阪府立高峯醫學學校	明治二六五九	三
同	私立関西大學	同三五五三〇	九七
同	私立大阪三一神學校	同三七三一九	一九九
兵庫縣	私立関西學院	同四六二一〇	二二
三重縣	元私立神宮皇學館	同三一三二四	七二
同	私立真宗勸學院高等科	同三五九二〇	一六〇
愛知縣	愛知縣立愛高專門學校	同二二五九	三
宣城縣	私立東北學院專門部	同三七四一四	九二
富山縣	富山縣立醫學專門學校	同四三三二	五四
和歌山縣	私立真言宗聯合高等大學	同四三三三	六六
熊本縣	私立熊本醫學專門學校	同三七五九六	一一二
同	私立九州藥學專門學校	同四三三三	二四三
支那上海	私立東亞同文書院	同四〇一三一	二三
南滿州	南滿醫學堂	同四五六一五	三二
外 務 省			
實業學校			
有 縣	學 校 名	徵令上認定 年月日	同上告示番號
南滿州	私立南滿州工業學校	明治四五四一	一〇九
關東州	東洋協會大連商業學校	大正元一二二	二六
東京府	元私立水産傳習所	明治二七一七	一
同	私立大倉商業學校本科	同三四六六	一三七
同	私立早稲田實業學校	同三五三三	五七
同	私立京華商業學校	同三五八二	一三七

6-0068

0498





同	私立天台宗中學校	同三六、一、一八	二二六
同	私立日蓮宗大學中專科	同三七、六、一	一一八
同	私立日本體育會體操學校	同四四、四、七	一一六
同	元私立真宗東本中學	同三三、六、七	四六
同	元私立第一佛教中學校	同三五、六、九	二一
同	元新義真宗豊山派 <small>高等中學校</small>	同三四、一、八	二一〇
同	元浄土宗第一教區中學校	同三九、六、二	二七
京都府	私立真宗京都中學校	同三六、一、九	一四
同	私立同志社普通學校	同三三、四、二	九四
同	私立真宗聯合京都中學校	同三八、一、七	七
同	私立花園學院中學校	同四一、二、〇	三三
同	元私立第五教區中學校	同三九、三、六	三四
同	元私立第三佛教中學校	同三八、一、六	一四
外 務 省			
大阪府	私立淨土宗 <small>第六教區聯合教校</small>	同三九、三、二	二八
兵庫縣	私立関西學院中學校	同四六、六、一〇	二三
同	私立武庫佛教中學校	同四〇、二、七	三〇
長崎縣	私立東山學院	同四〇、三、一	五七
同	私立鎮西學院中學校	同四一、二、三六	四九
新潟縣	私立有恆學舎	同三九、二、一〇	一七
三重縣	私立真宗勸學院中專科	同三五、九、二〇	一六〇
愛知縣	私立曹洞宗第三中學校	同三七、六、二一	一四三
同	元私立第四教區中學校	同四六、四、二七	一四五
滋賀縣	私立天台宗尋常中學校	同四一、九、二二	二三二
宮城縣	私立東北學院普通科	同三五、一、一六	七
同	私立曹洞宗第二中學校	同三八、三、一四	四三
秋田縣	秋田縣中學校 <small>元農業專修科</small>	同二六、五、二二	一

6-0068

0500

福井縣	元私立第二佛教中學	同四〇、五、五	一六〇
山口縣	私立曾洞宗第四中學	同三八、一、七	八
和歌山縣	私立古義皇宗聯合高野中學校	同四三、二、五	一八
同	元私立耐久學會	同三九、三、七	五〇
佐賀縣	元私立第五佛教中學	同三七、四、二九	一〇五
熊本縣	私立九州學院	同二六、一、一六	一九五
同	元私立九州學院普通部	同二〇、一〇、二〇	二

●大正四年二月二十六日  
文部省告示第二十六号

大正四年文部省令第二號第二條ニ依リ文官任用令上認定シタル  
學校名、如シ

實業學校

府 縣	學 校 名	徵兵令上認定シタル 年月日及告示番号	文部省任用令上認定シタル 年月日及告示番号
北海道	北海道廳立聖知農業學校	明治四二年三月五日 同四三、三、五	同四三、三、五
同	北海道廳立根室實業學校	同四二、三、一五 同四三、三、一五	同四三、三、一五
東京府	東京府立園藝學校	同四二、三、一七 同四三、三、一七	同四三、三、一七
同	東京府立農林學校	同四四、三、七 同四三、三、七	同四三、三、七
京都府	京都市立第一商業學校	同二二、七、六 同二二、七、六	同二二、七、六
同	京都市立美術工藝學校	同二二、九、一五 同二二、九、一五	同二二、九、一五
大阪府	大阪府立農業學校	同二二、七、一〇 同二二、七、一〇	同二二、七、一〇
同	市立大阪高等商業學校	同二二、七、九 同二二、七、九	同二二、七、九
神奈川縣	横濱市立神戶商業學校	同二五、六、一七 同二五、六、一七	同二五、六、一七
兵庫縣	兵庫縣立神戸商業學校	同二二、七、八 同二二、七、八	同二二、七、八
長崎縣	市長崎商業學校	同二二、九、一八 同二二、九、一八	同二二、九、一八
新潟縣	元新潟縣農學校	同二二、九、一八 同二二、九、一八	同二二、九、一八
同	新潟縣立能生水產學校	同四二、三、一五 同四二、三、一五	同四二、三、一五

外 務 省

6-0068





鳥取縣	元鳥取縣農學校	同三三	四一	同三九	八	一四五
同	元鳥取縣農學校獸醫科	同二五	七一	同二九	九	一一二
同	鳥取縣立商業學校	同四四	四一	同二六	三	六六
同	岡山縣立農學校	同三六	五	明治三三	一	一三
同	岡山縣立商業學校	同三六	六	同三三	四	一一
同	岡山縣立見島商船學校	同四三	三	同四〇	一	二六
同	笠岡町立商業學校	同四六	二	同四三	三	七〇
廣島縣	廣島縣立尾道商業學校	同三六	六	三四	一	二四
同	廣島縣立廣島商業學校	同三四	一	同三五	九	二六
同	廣島縣立商船學校	同三三	四	同三八	四	一五
同	廣島縣立西條農學校	同四四	三	大正二	一〇	七三
山口縣	山口縣立農學校	同二四	七	明治三〇	六	二五
同	山口縣立大島商船學校	同三二	五	同四三	三	一一
山口縣	市立下関商業學校	同二五	一	同二九	六	二五
德島縣	德島縣立農業學校	同三七	六	同三八	六	二八
香川縣	香川縣立工藝學校	同三三	六	同三八	六	二七
同	香川縣立栗島航海學校	同三三	六	同三八	八	一五
愛媛縣	愛媛縣立農業學校	同三四	六	同三五	三	三一
福岡縣	福岡縣立福岡工業學校	同二九	七	同三六	一	二四
同	福岡縣立福岡農學校	同三四	六	同三五	一〇	一五
同	久留米市立久留米商業學校科	同三六	一	同三六	六	二五
同	私立三井工業學校	同四一	九	同三六	六	二五
大分縣	大分縣立農學校	同二七	六	明治二九	八	一四
同	大分縣立農林學校	同三五	二	同三九	一	一八
熊本縣	熊本縣立工業學校	同三一	六	同三一	一〇	二八
同	熊本縣立商業學校科	同三〇	四	同三〇	五	二二

外務省

6-0068

0503

中學校ニ準スル學校		存 縣		學 校		名		教員令上認定ニシテ 年月日及告示番号		文官任用令上認定ニシテ 年月日及告示番号	
宮崎縣	元宮崎縣藏醫學校	同	三〇	四	二〇	同	三〇	七	二七		
鹿兒島縣	鹿兒島縣立南船水産學校	同	四	三	一三	同	四	二	二五		
沖繩縣	沖繩縣那覇区立那覇商業學校	同	三	九	一四	同	四	一〇	一四		
同	中頭郡若村組合立農學校	同	四	一	一六	同	四	一	二四		
北海道	函館中學校元商業科	明治	三	三	三	明治	二〇	三	一三		
東京府	私立青山學院中專科	同	三	四	一〇	大正	六	一	二一		
栃木縣	栃木縣中學校元農業科	同	二	六	二五	明治	三	四	三〇		
山形縣	山形縣中學校元農業科	同	二	七	四	同	三	一	一三		
宮崎縣	宮崎縣中學校元農業科	同	二	八	一	同	三	〇	一七		

外務省

6-0068

0504

内閣閣甲二一五號

大正七年十一月二十日

高橋 内閣書記官長

内田 外務大臣殿

通牒

高等官賞與ニ關シ左記ノ通閣議決定相成候

- 一 年末又ハ年度末（何レカ一回但シ年二期賞與ノ慣行アル作業官應ノ現業員ニ付テハ各回）ニ於ケル年俸月割額三ヶ月分以下ノ賞與ハ主務大臣朝鮮總督、臺灣總督並關東都督限リ專行スルコト
- 一 退官、退職、病氣危篤ノ場合ニ於ケル年俸月割額六ヶ月分以下ノ賞

外務省

與ハ主務大臣朝鮮總督、臺灣總督並關東都督限リ專行スルコト

- 一 前二項ノ制限ヲ超ユル賞與ハ其ノ都度理由ヲ具シテ内閣總理大臣ノ認可ヲ經ヘキコト

- 一 第一項並第二項ノ場合以外ノ特別賞與ハ其都度理由ヲ具シテ内閣總理大臣ノ認可ヲ經ヘキコト

以上

外務省

6-0068

0505



判任官進級方針

(一) 判任官ノ進級ハ十一級ヨリ七級ニ至ル迄ハ總テ各級ノ在職滿一年ヲ以テ進陞セシムルコト

(二) 六級以上ヘノ進級ハ之ヲ停年及拔擢ノ二種トスルコト

(1) 停年進級

(イ) 七級ヨリ六級ニ、六級ヨリ五級ヘノ進級ハ七級又ハ六級ノ在職各一年六箇月ヲ要スルコト

(ロ) 五級ヨリ四級ヘノ進級ハ五級在職二年ヲ要スルコト

(ハ) 四級ヨリ三級ヘノ進級ハ四級在職二年六箇月ヲ要スルコト

(ニ) 三級ヨリ二級ヘノ進級ハ三級在職三年半ヲ要スルコト

(ホ) 二級ヨリ一級ヘノ進級ハ二級ノ在職四年ヲ要スルコト

外務省

(ヘ) 一級ヨリ特別俸(月一〇〇)ヘノ進級ハ名譽進級トシ且一級ノ在職滿六年ヲ要スルコト

(2) 拔擢進級ハ更ニ之ヲ甲乙二種ニ分ツ

(乙) (イ) 七級ヨリ六級ヘノ進級ハ七級在職一年ヲ要スルコト

(ロ) 六級ヨリ五級ヘ、五級ヨリ四級ヘノ進級ハ六級又ハ五級在職各一年六箇月ヲ要スルコト

(ハ) 四級ヨリ三級ヘノ進級ハ四級在職二年ヲ要スルコト

(ニ) 三級ヨリ二級ヘノ進級ハ三級在職三年ヲ要スルコト

(ホ) 二級ヨリ一級ヘノ進級ハ二級在職四年ヲ要スルコト

(ヘ) 一級在職滿五年ヲ以テ特別俸(月一〇〇)ヲ給シ以テ<sup>上</sup>滿一年毎ニ増俸百二十圓迄支給シ得ルコト

外務省

(乙)		(甲)	
停年進級	昇年等級	昇年等級	昇年等級
級數	級數	級數	級數
0	11	0	11
1	10	1	10
1	7	1	9
1	8	1	8
1	7	1	7
		1	6
1/2	6		
			1
		1/2	5
1/2	5	1/2	4
			1/2
2	4		
		2	3
			2 1/2
2 1/2	3		
		3	2
			3
3 1/2	2		
		4	1
4	1		5 特/00
			1 105
			1 110
		5 特/00	1 120
		1 105	
		1 110	
6 特/00	1	120	

外務省

- (甲) (イ) 七級ヨリ六級、六級ヨリ五級、五級ヨリ四級へノ進級ハ七級、六級又ハ五級ノ在職各一年ヲ要スルコト
- (ロ) 四級ヨリ三級へノ進級ハ四級在職一年六箇月ヲ要スルコト
- (ハ) 三級ヨリ二級へノ進級ハ三級在職二年六箇月ヲ要スルコト
- (ニ) 二級ヨリ一級へノ進級ハ二級在職三年ヲ要スルコト
- (ホ) 一級在職滿五年ヲ以テ特別俸(月一〇〇)ヲ給シ以上滿一年毎ニ増俸百二十圓迄支給シ得ルコト

6-0068

0507

大正四年十一月二十三日起草  
同 年十二月 日附

雇員俸給支給規則

- 第一條 雇員ノ月俸ハ毎月二十一日（休日ニ當ルトキハ順延トス）日給ハ前月二十六日ヨリ其ノ月二十五日マテノ分ヲ其ノ月二十六日ヨリ末日マテニ於テ之ヲ支給スルモノトス
- 第二條 月俸者ノ俸給ハ採用ノトキ及給額増減ノトキハ發令ノ翌日ヨリ解雇ノトキハ發令ノ當日マテ之ヲ給ス但シ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス辭職ノトキ及死亡ノトキハ其ノ月ノ全額ヲ給ス
- 第三條 日給者ノ俸給ハ上廳ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス
- 第四條 軍籍ニ在ル者戰時其他ノ場合ニ於テ召集セラレ陸海軍ヨリ俸給

外務省

又ハ給料ヲ受クルトキハ其間本規則ニ依ル俸給ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル給額本規則ニ依ル給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ハ之ヲ補給スルコトヲ得（大正六年八月二十五日改正）

第五條 日給者上廳セサルモ左ノ場合ニ於テハ俸給ヲ支給ス

- 一 一般又ハ特ニ大臣ノ達ニ係ル休日（休日前後上廳セサルトキハ之ヲ除ク）及暑中賜休暇中
  - 二 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ
  - 三 父母ノ祭日
  - 四 忌服又ハ檢疫事項ニ依リ上廳スル能ハサルトキ
  - 五 水火其ノ他ノ災害ニ依リ上廳スル能ハサルトキ
- 第六條 月俸者ハ傷痍疾病ニ依リ執務セサルコト九十日ヲ超ユルトキ及

外務省

私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ日割ヲ以テ  
月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若シクハ疾病ニ罹リ又  
ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

外務省

拓第八四號

大正六年八月二十四日

内閣總理大臣伯耆寺内正毅

外務大臣法學博士子爵 本野 一郎 殿

今回内閣總理大臣管理ノ下ニ拓殖局設置相成候ニ付テハ自今貴省ヨリ朝  
鮮總督府臺灣總督府關東都督府樺太廳ニ交渉ヲ要スヘキモノハ外交ニ關  
スルモノヲ除キ總テ拓殖局ヲ經由スルコトニ致度此段及通牒候也

外務省

6-0068

0509

高 裁 案

今般在漢堡帝國總領事館開館ニ付總領事以下館員在勤俸妻加俸等臨時増率ヲ白、蘭、莫斯科、「アンウエルス」等ノ最寄公館同様ノ率ニ定メ度仰高裁

大正九年一月八日

總領事、領事 副領事、官補、書記生

四割五分

五 割

外 務 省

御用滞京ヲ命スル辭令書ハ近來實際ニ於テハ殆ント一般ニ之ヲ交附シ居ラサルノ例ナリシカ今後ハ左ノ内規ニ據ルコトト致シ度シ

一 海外在勤ヲ命セラレタル者ニシテ實際本省ノ事務ニ従事セシムル爲又ハ其ノ他ノ公務上ノ理由ニ依リ滞京ヲ命セラルル者ニ對シテハ御用滞京ノ辭令書ヲ交附スルコト

二 單ニ船便ノ都合又ハ私事上ノ理由ニ依リ規定ノ期間内ニ出發シ得サル者ニ對シテハ御用滞京ノ辭令書ヲ交附ゼス但シ右ノ場合ハ口頭ヲ以テ滞京ヲ命セラレタルモノト見做スコト

大正六年八月二十五日

外 務 省

大正七年三月二十五日起草

省議案

在露大使館ハ撤退セラレタルモノニ非ス内田大使及同行ノ館員ハ命令ニ依リ歸朝シ丸毛參事官並花岡二等書記官ハ出張中目下「ゾオログダ」ニ滞在シ居ルモノト認メ可然哉此段仰高裁

外務省

大正八年六月十六日

内閣書記官長 高橋光威

外務大臣子爵 内田康哉 殿

依命通牒

官吏ノ海外出張ニ關スル件爾今左記ノ通處理スルコトニ閣議決定相成候  
一 親任官ノ海外出張ハ主務大臣、朝鮮總督、臺灣總督並關東長官ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命スルコト  
一 勅任官ノ海外出張ハ從前特ニ委任セラレタル場合ヲ除クノ外内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ主務大臣、朝鮮總督、臺灣總督並關東長官ニ於テ之ヲ命スルコト

外務省

6-0068

0511

- 一 奏任官以下ノ海外出張ハ主務大臣、朝鮮總督、臺灣總督並關東長官  
限リ之ヲ命スルコト
- 一 官吏待遇者ノ海外出張ハ各其ノ本官ノ令ニ依ルコト
- 一 囑託雇員以下ノ海外出張ハ奏任官以下ノ例ニ依ルコト

外務省

官吏ノ海外出張ニ關スル件

官吏ノ海外出張ハ從來高等官ニ付テハ主務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ  
判任官ニ付テハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ主務大臣之ヲ命シ居候處近時  
交通機關發達ノ結果ハ本邦ト海外諸國トヲ近接セシメタルノミナラス時  
運進展ニ伴ヒ官吏ノ海外出張モ愈々頻繁ト爲リ且其ノ派遣ノ急ヲ要スル  
モノ將來益々増加スルノ傾向アルニ顧ミ官吏ノ海外出張ニ付テハ爾今左  
記ノ通處理相成然ルヘシト認ム

記

- 一 親任官ノ海外出張ハ主務大臣、朝鮮總督、臺灣總督並關東長官ノ奏  
請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命スルコト
- 一 勅任官ノ海外出張ハ從前特ニ委任セラレタル場合ヲ除クノ外内閣總

外務省



。理大臣ノ認可ヲ經テ主務大臣、朝鮮總督、臺灣總督並關東長官ニ於テ之ヲ命スルコト

一 奏任官以下ノ海外出張ハ主務大臣、朝鮮總督、臺灣總督並關東長官限り之ヲ命スルコト

一 官吏待遇者ノ海外出張ハ各其ノ本官ノ例ニ依ルコト

一 囑託雇員以下ノ海外出張ハ奏任官以下ノ例ニ依ルコト

外務省

(參照)

一 臺灣總督必要ニ應シ部下ノ文官ヲ清國南部香港柴棍及比律賓群島へ派遣ノ件同總督限り決行ノコト

(明治二十九年七月二十九日閣議決定上裁ヲ經テ拓殖務大臣へ通牒)

一 統監府及其ノ所屬官署ノ職員ヲ韓國ヨリ清國並露領西比利亞へ派遣ノ件統監限り決行ノコト

(明治三十九年六月一日上裁ヲ經テ其ノ旨統監へ指令)

一 關東都督府及其ノ所屬官署ノ職員ヲ清韓兩國並浦鹽斯德附近ノ件同都督限り決行ノコト

(明治四十年四月三十日閣議決定上裁ヲ經テ外務大臣へ指令)

一 陸海軍高等官及判任官ヲ韓國並滿洲ニ於ケル陸海軍軍隊所在地及之

外務省

6-0068

0513

ト密接ノ關係ヲ有スル在韓國滿洲我カ官廳所在地へ派遣ノ件陸海軍大臣限り決行ノコト

(明治四十年五月二十日閣議決定上裁ヲ經テ陸海軍大臣へ指令)

一 必要ニ應シ部下ノ官吏ヲ韓國滿洲租借地並南滿洲鐵道區域ニ派遣ノ件各省大臣統監關東都督及臺灣總督限り決行ノコト

(明治四十二年四月二十三日閣議決定上裁ヲ經テ各省大臣統監へ通牒  
並關東都督臺灣總督へ通達方外務大臣内務大臣へ通牒)

外務省

次官

大正七年三月七日附

休暇規程ニ依リ歸朝シタル者及御用ノ都合ニ依ラスシテ本邦ニ立寄りタル者等ノ賜暇歸朝ニ係ル外國在勤ノ年數中斷ニ關スル省議案

御用歸朝ノ上本邦ニテ他ニ轉勤シタル者又ハ任地ニ於テ他ニ轉勤被命赴任ノ途御用ノ都合ニ依リ歸朝シタル者ニ就キテハ本邦滞在四週間迄ハ賜暇歸朝ニ關スル外國在勤年數ヲ中斷セサルコトニ被定居ルモ其ノ他ノ者ニ就キテハ從來別段ノ規定ナク箇々ノ場合ニ於テ銓議スルノ例ニ有之候處休暇規程ニ依リ歸朝シタル者及御用ノ都合ニ依ラスシテ赴任ノ途中本邦ニ立寄りタル者等ニ對シテハ爾今本邦滞在三週間ヲ超ユル場合ニハ賜暇歸朝ニ關スル外國在勤年數ヲ中斷スルモノト決定相成可然哉此段仰高裁

外務省

6-0068

0514

備考

休暇規程ニ於テハ外國在勤中ノ在外公館職員ニハ毎年三十日間ノ休暇ヲ與フルコトトナリ居レリ

外務省

閣甲第三八〇號

大正八年十二月九日

内閣書記官長 高橋光威

外務大臣子爵 内田康哉 殿

通牒

左ノ通本日閣議決定相成候

判任官雇員傭人（作業廳ニ屬スル職工ヲ除ク）ニ對スル年末賞與（俸給殘額又ハ諸給與等ヨリ支出スルモノ）ノ額カ昨年未賞與額（俸給殘額又ハ諸給與等ヨリ支出セシモノト臨時手當殘額ヨリ支出セシモノトヲ合算ス）ニ達セサルトキハ之ニ達スル迄ハ所管大臣大藏大臣ト協議ノ上此際

外務省

6-0068

0515

ニ限り平均月給半ヶ月以内ノ臨時手當ヲ増給スルコトヲ得

外務省

大正七年三月一日附

病氣ノ爲缺勤スル者ニハ從來一日ノ缺勤タリトモ届書ヲ差出サシムル例規ノ處今般出勤簿ヲ改正シ且其捺印及計算等ヲ勵行スルコトト相成候ニ就テハ右ノ例規ヲ其儘勵行スルノ要ナキヤニ被存候間爾今引續キ壹週間以上ニ渉ル見込ノモノ又ハ既ニ壹週間以上ニ渉リタルモノハ醫師ノ診断書ヲ添へ届出ツルコトトシ其ノ他ノ場合ニハ缺勤者各自其ノ局課長へ申報スルノミニテ正式届書ヲ以テスル手續ハ省略セシメ可然哉  
尙忌引其ノ他ノ賜暇ハ一日タリトモ届出シムルコト從來ノ通ニ致度此段併せて仰高裁

外務省

6-0068

0515

各局課長へ通牒案

人事課長

病氣缺勤ノ届書ニ關シテハ今般別紙寫ノ通決裁相成候條貫局課員一同へ御示達方可然御取計相成度依命此段申進候也

三月一日附

(本文省議決定ノ寫ヲ添フルコト)

外務省

閣甲第一二號

大正四年二月二十三日

内閣書記官長 江木 翼

外務大臣男爵 加藤高明 殿

依命通牒

左記ノ通閣議決定相成候

左ノ各官ヲ本官トスル者ヲ除クノ外官吏並待遇官吏其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス官務ニ服スル者衆議院員ニ當選スルモ議員ヲ兼ヌルノ許可ヲ與ヘサルコト

外務省

6-0068

0517

人事課

- 一 國務大臣
- 一 鐵道院總裁
- 一 朝鮮總督府政務總監
- 一 內閣書記官長
- 一 法制局長官
- 一 各省參政官、同副參政官ノ任用ニ至ル迄ノ間各省次官
- 一 秘書官
- 一 秘書

外務省

通譯官ヨリ外交官領事官ニ任用セラレタル者ノ  
轉任範圍ニ關スル件

- 一 通譯官ヲ外交官領事官ニ任用スルノ道ヲ啓キタルハ明治二十九年勅令第一八二號ノ特別任用令ニシテ同令但書ノ明文ヲ以テ其ノ在勤地ヲ(一)前官任國內又ハ(二)前官任國內ニ通用スル國語ヲ用キル國ノ版圖内ノ孰レカニ限ルコトト爲リ居レリ
- 一 通譯官ヨリ外交官領事官ニ轉任シタル者カ前官任國外換言スレハ其嘗テ專攻シタル國語ヲ用キル範圍内ニ屬セサル地方ニ轉勤スルノ自由ハ明治三十年勅令第二百九十號第二條ノ明文ヲ以テ同令施行後三年間ニ限り特ニ之ヲ認メタルノ關係ヨリ判斷スレハ語學書記官又ハ語學領事カ當該語學國以外ニ外交官又ハ領事官トシテ在勤スルノ道ハ明治三

外務省

6-0068

0518

十三年十月以降全然杜絶セルモノト解セサルヲ得ス

一 或ハ前記勅令第五條中ノ「外交官領事官及貿易事務官ノ間ニ轉任スルコトヲ得」ノ明文ヲ捨トシテ一旦外交官又ハ領事官ニ任用セラレタル上ハ他ノ如何ナル外交官領事官ニモ轉任スルノ自由ヲ認メタルモノト解スルノ説アレトモ此説ハ明カニ不當ニ右ハ他ノ高等官ニ轉勤スルヲ得サルノ趣意ヲ有スルノ外同一任國內ニ於ケル外交官タルト領事官タルトヲ問ハサルノ意義ニシテ第二條ノ明文ニ依ル本令施行後三年間ノ期間ヲ無限ニ延長スルノ趣意ニ非サルコト多言ヲ待タス

一 或ハ又二十九年勅令第一八二號但書中「前官任國內ニ通用スル國語ヲ用キル國ノ版圖内」ノ解釋トシテ例ヘハ英語ハ支那各地ニ通用スル國語ナリ故ニ支那語通譯官出身ノ外交官ヲ英京倫敦ニ在勤セシムルヲ

外務省

妨ケスト論スル者アラムカ此筆法ヨリスレハ佛蘭西語ハ南米各地ニ廣ク通用スル國語ナルノ理由ニ基キ西班牙語通譯官出身ノ外交官ヲ巴里ニ在勤セシムルヲ得ルノ類ニシテ殆ント但書ノ趣旨ヲ没却スルノ結果ト爲ル其失當タルヤ亦多辯ヲ要セサルヘシ

一 鄭書記官倫敦在勤ノ詮議ニ付テハ記錄ノ徵スヘキモノナケレトモ右ハ大正二年勅令第二二六號ヲ以テ勅令但書中ニ「又ハ前官ノ任國內ニ通用スル國語ヲ用キル國ノ版圖内」ヲ追加シタルヨリ以前ノコトニシテ英語ハ支那通用ノ國語ナリトスル前段ノ假説ヲ取リタル結果ニ非サルコト明ニ何レニセヨ通譯官出身ノ外交官例事官ヲ當該語學國以外ノ任所ニ轉勤セシムルニハ現行法令ノ改正ヲ必要トスルモノト異ル

七三、二二 菊地 參事官

外務省



内閣甲第二二九號

大正九年七月二十一日

内閣總理大臣 原 敬

外務大臣子爵 内田 康哉 殿

通 牒

官舎貸渡内規別表中左ノ通改正ス

「樞密院議長」ノ次ニ「樞密院書記官長」及「樞密院書記官ノ内一名」ヲ、「大藏省金庫局長若クハ局次長」ノ次ニ「海軍次官」ヲ、陸海軍武官ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者」ノ次ニ「司法大臣官房職員課長」ヲ、「農商務省山林局試験場詰官吏」ノ次ニ「農商務大臣ニ於テ

外 務 省

特ニ官舎居住ヲ命スル大阪工業試験所職員」ヲ、「北海道廳鐵道部員ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者」ノ次ニ「港務部長並内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル港務部職員及海港檢疫所職員」ヲ加ヘ「港務局長及遞信大臣ニ於テ指定スル港務局員」ヲ削ル

外 務 省

6-0068

0520

閣議第一三九號

大正九年九月八日

内閣書記官長 高橋光威

内田 外務大臣 殿

依 命 通 牒

大正九年勅令第三百六十七號ノ公布ニ伴ヒ官吏又ハ官吏待遇者外國政府ノ聘用ニ應スル場合等ノ取扱ニ關シ左ノ通閣議決定相成候

一 大正九年勅令第三百六十七號ニ依リ許可ヲ與ヘ竝ニ在職者ニ關スル規定ヲ適用セムトスルトキハ豫メ主務大臣外務大臣ト連署シテ閣議ニ提出ノ上上裁ヲ經ヘキコト

外 務 省

閣甲第一七號

大正六年三月二日

内閣書記官長伯爵 兒玉秀雄

外務大臣法學博士子爵 本野 一郎 殿

依 命 通 牒

左記ノ通閣議決定相成候

一 大正四年二月二十三日ノ閣議決定ニ掲クル官吏ノ外帝國大學教授ハ衆議院議員タルコトヲ許可シ得ルモノトス

外 務 省

6-0068

0521

大正六年十一月二十二日附

局 課 長 宛

人 事 課 長

除服出仕ヲ命シタルトキ人事課へ通報方ニ付回章案

從來忌服ヲ受クヘキ者ハ正式ノ忌引届ヲ差出スノミニテ其除服出仕ハ事務ノ繁閑ヲ見計ラヒ尙當人ノ事情ヲ參酌シ當該局課長限り之ヲ命シ其ノ期日人事課長へ通報可相成慣例シ處近來往々右通報漏ト相成候場合モ有之候處右ハ人事事務取扱上差支不尠候條爾今除服出仕ヲ命セラレタルトキハ直ニ御通報相成候様致度此段申進候也

外 務 省

官外第六三〇號

大正八年六月十八日

臺灣總督府民政長官 法學博士 下 村 宏

外務次官 幣 原 喜 重 郎 殿

當府事務官又ハ囑託ヲ兼任スル在南支南洋ノ各領事更任ノ際ハ從來書面ニ依リ御通報ヲ得來リ候處當府トノ直接通信事項ノ範圍ノ擴張セラレ加ヘテ兩者ノ事務關係逐日頻繁ト相成リツアル今日ニ於テハ急速右異動ノ消息承知致度次第モ有之候ニ付今後ハ電報ヲ以テ御通報ヲ得候様致度此段得貴意候也

外 務 省

6-0068

0522

閣甲第三四〇號

大正八年十月四日

内閣書記官長 高橋光威

外務次官 埴原正直 殿

通 牒

特別ノ技術ヲ要セサル雇員ニ對シテハ爾今一箇月五拾圓ヲ超エサル範圍  
内ニ於テ俸給ヲ支給シ得ルコトニ閣議決定相成候

外 務 省

大正八年七月十九日

高橋内閣書記官長

幣原外務次官 殿

通 知

今般次官會議ニ於テ官廳職員ノ服裝ニ關スル件左記ノ通申合セ候

記

官廳職員ノ服裝ニ關スル件

従前「フロックコート」ヲ用キタル場合ニ於テ爾今「モーニング」背廣  
又ハ紋付羽織袴ヲ用ユルコトヲ得但シ宮中ニ參入スル場合及服裝ニ付特  
ニ別段ノ指定ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

外 務 省

6-0068

0523

閣第五四號

大正九年一月二十六日

内閣書記官長 高橋光威

外務次官 埴原正直 殿

通牒

高等試験委員ノ銓衡ヲ經ル書類ハ爾今法制局内高等試験委員長へ直接送付相成候様致度

追テ上奏又ハ稟申書ニ添付スヘキ銓衡書ハ本書ハ進達相成度不得已寫ヲ添附スル場合ハ必ス銓衡番號及同年月日ヲ記入相成度

外務省

閣甲第一八六號

大正九年七月六日

内閣書記官長 高橋光威

外務次官 埴原正直 殿

通牒

今般學位令改正相成候ニ就テハ自今宣示署名書式中學位ヲ削除スルコトニ閣議決定相成候

外務省

6-0068

0524

閣甲第三九號

大正九年三月十一日

外務大臣子爵 内田康哉 殿

内閣書記官長 高橋光威

依 命 通 牒

左記ノ通閣議決定相成候

- 一 大正四年二月二十三日付竝同六年三月二日付官吏ノ衆議院議員兼職ニ關スル閣議決定ハ之ヲ廢止ス
- 一 官吏ニシテ衆議院議員選舉法第十六條ニ依リ衆議院議員タラムトスル者ハ本屬長官ノ許可ヲ受ケシムヘシ

外 務 省

閣甲二七八號

大正九年八月十八日

内閣書記官長 高橋光威

埴原外務次官 殿

通 牒

今般雇員ノ俸給制限ニ關シ左ノ通閣議決定相成候

- 一 特別ノ技術ヲ要セサル雇員ニ對シテハ一ヶ月八十五圓ヲ超エサル範圍内ニ於テ俸給ヲ支給スルコトヲ得

外 務 省

6-0068

0525

閣甲二七七號

大正九年八月十八日

内閣書記官長 高橋 光威

壇 原 外 務 次 官 殿

通 牒

今般判任文官俸給ノ初給竝再任ノ場合ニ於ケル俸給其ノ他ニ關シ左ノ通  
閣議決定相成候

一 判任文官俸給ノ初給ハ月俸八十五圓以下トス

一 再任ノ場合ハ初給俸以下又ハ前官ニ於テ受ケタル級俸以下トス但シ

前官中昇級ニ適スル年限ニ達シタル者ニ在リテハ前官ノ級俸ニ一級

外 務 省

ヲ進ムルコトヲ得

一 特別ノ事由アリテ前各項ニ依リ難キ場合ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ受

クヘシ

外 務 省

0526

6-0068



閣甲二七六號

大正九年八月十八日

内閣書記官長 高橋 光威

殖 原 外 務 次 官 殿

通 牒

今般奏任文官ノ俸給支給ニ關スル取扱内規別紙ノ通閣議決定相成候

外 務 省

奏任文官俸給ノ初給、昇級及再任ノ場合ノ給額ニ

關シテハ左ノ各項ニ依ルモノトス

- 一 奏任文官俸給ノ初給ハ別表第二表第一號ニ依ルモノハ年俸二千四百圓、同第二號ニ依ルモノハ年俸千八百圓、同第三號ニ依ルモノハ年俸千四百圓以下トス
- 一 前項初給俸以上ノモノノ昇級ハ級ヲ追ヒ一年ヲ超ユルニ非サレハ一級ヲ進ムルコトヲ得ス
- 一 再任ノ場合ノ俸給ハ初給俸以下又ハ前官ニ於テ受ケタル級俸以下トス但シ前官中昇級ニ適スル年限ニ達シタル者ニ在リテハ前官ノ級俸ニ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 一 高等官官等俸給令第四條及第五條ノ規定ヲ適用セサル文官ニハ前各

外 務 省

6-0068

0527

項ヲ、高等官官等俸給令第四條ノ規定ヲ適用セサル文官ニハ第一項及第三項ヲ適用セス

一 退官、退職、休職、病氣危篤ノ際其ノ他特別ノ事由アル場合ニ於テハ内閣總理大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

外務省

内閣甲第二七五號

大正九年八月十八日

内閣書記官長 高橋光威

植原外務次官殿

通牒

今般高等官官等幽敍年限算定内規別紙ノ通閣議決定相成候

外務省

0528

6-0068

一 高等官一等ヲ最高官等トスル勅任文官ノ高等官二等在職年數ニ付テハ何等ノ制限ヲ附セス高等官二等在職二年以上ヲ以テ高等官一等ニ陞叙セシム

一 高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官中各省局長ハ高等官二等在職三年以上ニシテ高等官一等ニ陞叙セシム

一 高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官中各省參事官、臨時平和條約事務局部長、辨理公使、總領事ハ高等官二等在職五年以上ニシテ高等官一等ニ陞叙セシム

一 前二項ニ列記シタル以外ノ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ハ高等官二等在職七年以上ニシテ高等官一等ニ陞叙セシム

一 前各項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ最高官等

外務省

トスル勅任文官ノ高等官二等以上ノ在職年數ハ之ヲ現官ノ高等官二等ノ在職年數ニ通算ス

一 本官奏任官タル者兼官高等官二等ニ成規ノ年數在職スルモ高等官一等ニ陞叙セス

一 退官、退職、病氣危篤ノ際ハ前各項ノ制限ニ依ラス高等官官等俸給令所定ノ年限ヲ以テ陞叙スルコトヲ得

外務省

6-0068

0529

内閣甲第二六六號ノ屬

大正九年八月十八日

内閣書記官長 高橋光威

外務大臣子爵 内田康哉 殿

依 命 通 牒

今般高等官官等俸給令中改正相成號表ノ改正等有之候處右ハ既定豫算ノ  
範圍内ニ於テ之ヲ行ヒ之カ爲直ニ俸給豫算ニ於ケル平均俸給ヲ増加セサ  
ルコトニ閣議決定相成候

外 務 省

奉 命

外 務 省

6-0068

0530

大正九年四月二十一日午前十時半外務次官室ニ左ノ諸官參集セリ

壇 原 次 官

芳 澤 政 務 局 長

田 中 通 商 局 長

松 田 條 約 局 長

山 川 平 和 條 約 事 務 局 部 長

菊 地 大 使 館 參 事 官

奥 山 人 事 課 長

岡 本 條 約 局 第 三 課 長

岡 田 事 務 官

外 務 省

壇原次官主裁ノ下ニ會議ヲ開キ豫テ決裁ヲ經タル別添臨時平和條約事務局事務分掌規程ヲ基礎トシ政務、通商及條約ノ三局ト新設ノ臨時平和條約事務局トノ間ニ於ケル事務ノ分配ニ付協議ヲ遂ケタル結果左ノ通決定セリ

外 務 省

6-0068

0531

一 軍備制限問題ニ關スル事務ハ臨時平和條約事務局ニ於テ管掌スルコト  
 一 山東問題ニ關スル事務ハ總テ從來ノ通政務局第一課ニ於テ管掌スルコト  
 一 委任統治ニ關スル事務ハ懸案中ナル第三種委任統治形式問題ノ結末ヲ見ルニ至ル迄從來ノ通條約局第三課ニ於テ管掌スルコトトシ其ノ後ニ於テハ臨時平和條約事務局ノ主管ニ移スコト  
 一 國際労働ニ關スル事務ニ付テハ  
 (イ) 華盛頓會議ノ跡始末ハ平和條約事務局ニ於テ管掌スルコト  
 (ロ) 「ゼノア」ニ開カルヘキ海員労働會議ニ關スル事務ニ付テハ同會議ニ列席スル帝國側委員ノ本部出發ニ至ル迄ハ通商局ニ於テ管掌シ右以後ニ於テハ臨時平和條約事務局ニ於テ之ヲ管掌スルコト尤モ其

外務省

ノ場合ニ於テモ始終通商局ト協議スヘキハ勿論トス  
 (ハ) 移民委員會ニ關スル事務ハ總テ通商局第三課ニ於テ管掌スルコト  
 一 常設國際司法裁判所ニ關スル事務ハ從來ノ通條約局ニ於テ管掌スルコト  
 一 目下交渉中ノ交通ニ關スル四協約並之ニ關聯スル交通會議ニ關スル事務ハ從來ノ通條約局ニ於テ管掌スルコト  
 一 航空條約ニ關スル事務ハ從來ノ通條約局ニ於テ管掌スルコト  
 一 對獨平和條約第八編(賠償)ニ關スル事務ハ臨時平和條約事務局ニ於テ管掌スルコト  
 一 特殊財産管理ニ關スル事務ハ從來ノ通今暫ラク通商局ニ於テ管掌スルコト

外務省

- 一 特殊債權及特殊損害ニ關スル事務並混合仲裁裁判所ニ關スル事務ハ臨時平和條約事務局ニ於テ管掌スルコト
- 一 俘虜及抑留人民ニ關スル事務ハ今暫ラク從來ノ通政務局ニ於テ管掌スルコト
- 一 其ノ他ハ事件發生ノ都度關係局課ト平和條約事務局トノ間ニ於ケル協議ニ依リ當該事件ノ管掌ヲ定ムルコト

外務省

臨時平和條約事務局事務分掌規程

- 第一條 第一部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 聯盟總會及聯盟理事會ニ關スル事項
  - 二 聯盟ニ關スル各種ノ調査殊ニ帝國政府ノ執ルヘキ方針ノ確立ニ關スル事項ノ審議
  - 三 國際勞働會議及國際勞働理事會ニ關スル事項
  - 四 賠償ニ關スル事項
- 第二條 第二部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 特殊財産管理ニ關スル事項
  - 二 特殊債權及特殊損害ニ關スル事項
  - 三 混合仲裁裁判所ニ關スル事項

外務省

- 四 俘虜及抑留人民ノ歸還ニ關スル事項
- 五 對埃平和條約、對勃平和條約、對洪平和條約及對土平和條約並各平和條約ニ附屬スル諸條約類、公文書ノ整理、翻譯、編輯、印刷及説明書ノ作成ニ關スル事項
- 第三條 本局ニ屬スル事務ニシテ前二條ノ列記外ニ屬スルモノハ隨時其ノ主管ヲ定ム

外務省

外務省情報部分課規程（内規）改正案

- 第一條 情報部ニ第一部、第二部、第三部及庶務課ヲ置ク
- 第二條 第一部ニ於テハ支那、香港、澳門及暹羅ニ關シ、第二部ニ於テハ歐羅巴、歐羅巴諸國ノ屬領殖民地及海外領土並其ノ隣接地方、南北亞米利加諸國及北米合衆國ノ海外領土ニ關シ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一、各種情報ノ蒐集及調査ニ關スル事項
  - 二、新聞通信其他宣傳の事業ニ關スル機關ノ經營計畫及補助ニ關スル事項
  - 三、日本内地ノ言論機關其他必要ナル方面ニ對スル情報ノ供給ニ關スル事項

外務省



第三條 第三部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、前條第二號ヲ除ク外海外ニ對スル宣傳及啓發ニ關スル一切ノ事項
- 二、日本ニ於ケル外字新聞及外國通信員ニ關スル事項
- 三、日本ニ於ケル外人啓發ニ關スル事項
- 四、日本ニ於ケル一般宣傳ニ關スル事項

第四條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、部内ノ文書接受配付發送分類保存ニ關スル事項
- 二、部内ノ會計及用度ニ關スル事項
- 三、部内ノ人事ニ關スル事項
- 四、其ノ他一般庶務事項

外務省

大正八年九月十二日附

留學生支度料内規額増額ノ件

本年度ニ於テ哈爾濱、北京及盤谷等ニ派遣セントスル本省留學生ノ支度料ハ規定額百圓以下トアルニ對シ内規額ハ哈爾濱八十圓北京及盤谷六十圓ナル處右内規額ハ數年前ノ制定ニ係リ最近物價騰貴ノ趨勢ニ適應セサルヲ以テ本年度ヨリ前記ノ地ニ赴クモノノ支度料内規額ヲ哈爾濱百圓北京及盤谷九十圓ニ増額致度又右増額ニ對スル振合上歐洲及南米諸地ニ赴クモノニ對シテモ現在ノ内規額百圓（規定額百五十圓以下）ヲ百二十圓ニ引上クル必要アリト認メラル右増額ノ爲差向支給ヲ要スル支度料ノ増加額ハ總計約三百五十圓ナル處本年度派遣者ニ對スル豫算ハ人員十八名

外務省

ニ對スル學資ヲ八月分ヨリ計上シ且學資ト支度料トハ交互流用シ得ルヲ以テ本案増額ノ爲ニ豫算額ニ不足ヲ生スルコト無キ見込ナリ  
仍テ留學生支度料内規額増額ノ件本案通決定相成度  
仰高裁

外務省

裁  
(次官決議)

大正八年六月十八日 起草

高 裁 案

本省員ニシテ高等試験外交科試験ニ應セントスル者ニ休暇附與方ニ關シ  
爰ニ定メラレタル内規ニハ休職ノ出願ハ無制限ニ許可スルコトトナリ居  
ルトコロ此種ノ休職出願者數年々増加シ省務運行上ニ及ホス支障尠カラ  
サルニ付休職許可ノ度數ヲ二回ニ制限シ且ツ不合格ノ場合ニ於ケル復職  
ハ本省ノ都合ニ依ルコトトシ本年ヨリ左案ノ通り決定各局課長へ通達可  
然哉  
仰高裁

外務省

案

- 一 本省員（判任官、雇及有給囑託）ニシテ高等試験外交科試験ニ應ゼントスル者ニ對シテハ最初ノ一回ニ限り試験前通シテ三十日以内（暑中休暇二週間ハ此外トス）竝ニ受験中休暇ヲ與フルコト但シ不合格ノ際ハ其確定ノ翌日ヨリ出勤セシム
- 二 應試ノ爲メ既ニ一回休暇ヲ與ヘラレタル者ニ對シテハ爾後絶對ニ受験準備ノ爲メニ休暇ヲ與ヘサルコト但シ受験中ノ休暇ハ此限ニアラス
- 三 應試ノ爲メニスル休職ノ出願ハ二回ヲ限り之ヲ許可スルコト但シ不合格ノ場合ニ於テ復職セシメサルコトアルヘシ
- 四 休職ノ回数ハ舊外交官領事官試験ニ應試シタル際與ヘラレタル分ヲモ通算シ休職ノ回数ハ本年ヨリ之ヲ起算ス

外務省

（次官決議）

大正八年六月十八日 起草

高 裁 案

近來書記生（又ハ通譯生）ニ採用セラレタル者ノ中高等試験外交科試験ニ應スル爲メ便宜附與方ヲ願出ツル向少カラサルトコロ新任後又ハ海外在勤後舊洩<sup>日抄</sup>キ者ニ對シ之ヲ許可スルコトハ人線上ニ支障ヲ來スノミナラス同時ニ就官セル他ノ同資格者間ニ權衡ヲ失シ全体ノ勤務上ニ好マシカラサル影響ヲ來スヘキヲ以テ以後是等ノ出願ニ對シテハ相當ノ制限ヲ加フルコトトシ左案ノ通り之レカ許可標準ヲ定メ本省各局課長竝ニ在外公館長ニ通告可然哉仰高裁

外務省

案

- 一 海外勤務者ニシテ高等試験外交科試験ニ應スル爲メ休暇、休職又ハ移朝ヲ願出ツル者ニ對シテハ任地到着ノ日ヨリ滿一ケ年ヲ經過シタル場合ヲ除クノ外凡テ之ヲ許可セス
  - 二 試験又ハ銓衡ニ依リ若ハ留學生ヨリ初メテ書記生（又ハ通譯生）ニ任官シタル者ハ海外ニ勤務セルト否トヲ問ハス任官ノ日ヨリ滿二年ヲ經過セル場合ノ外受験ノ爲メニ便宜ハ一切之ヲ附與セス
- 本省屬又ハ囑託ヨリ書記生ニ轉官シタル者ニ就テモ亦同シ但シ此場合ニ於テハ前官職ノ在職年數ハ之ヲ前項ノ年數ニ通算ス

外務省

（次官決議）  
裁

大正七年七月十五日 紀

本省員ニシテ高等試験外交科試験應試ノ爲休職ヲ許サレタル者合格セザリシ場合ハ其不合格確定後定員ノ許ス限り直チニ復職セシムルコト可然哉

仰高裁

外務省

大正九年九月 日

外務次官 壇・原 正 直

殿

外交官補、領事官補採用方ニ關シ今般別紙ノ通省議決定相成候條此段及  
通知候也

外務省

外交官補、領事官補採用ニ關スル件

外交官補、領事官補ノ本來ノ性質ニ顧ミ年齡ノ比較的長ケタルモノハ其  
<sup>差</sup>成上竝其ノ他ノ點ニ於テ兎角不都合ニ付漸次採用者ノ年齡低下ノ主義ヲ  
執リ成績發表ノ日ニ於テ滿三十歳以上ノモノハ成績特ニ優秀ナル場合ノ  
外成ルヘク之ヲ採用セサルコトニ内規ヲ定メ大正十年度高等試験期ヨリ  
實行スルコト

外務省

6-0068

0539

閣甲第一七號

大正六年三月二日

内閣書記官長伯爵兒玉秀雄

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

依命通牒

左記ノ通閣議決定相成候

- 一 大正四年二月二十三日ノ閣議決定ニ掲クル官吏ノ外帝國大學教授ハ衆議院議員タルコトヲ許可シ得ルモノトス

外務省

高 裁 案

「オムスク」及「イルクーツク」ヲ除ク在西北利亞、哈爾濱及齊々哈爾各公館在勤者ノ在勤俸等臨時増率ハ先般高裁ヲ經テ別表ノ通改正シ本年十月ヨリ實施シ來レル處哈爾濱及「ハバロフスク」ニ於ケル留學生學資臨時増率ハ舊率ノ儘ナルニヨリ今回之ヲ各地在勤書記生在勤俸増率同様五割ニ引上ケ去ル十月ヨリ支給致度

又新ニ「リオ、デ、ジアネーロ」ニ派遣シタル留學生ニ對シテハ伯國在勤書記生ニ對スルト同様三割ノ増率ヲ給スル様致度

仰 高 裁

大正八年十二月二十五日

外務省

大正八年度十月以降在勤俸、妻加俸等臨時増率

館名	改正率		舊率	
	總領事、領事	副領事、官補、書記生	總領事、領事	副領事、官補、書記生
浦潮	四割	五割	二割五分	三割
ハバロフスク	同	同	同	同
ゾゴエスチエンスク	同	同	同	同
ニコラエツスク	同	同	同	同
ペトロハウロスク	同	同	同	同
ハル賓	三割五分	四割五分	同	同
齊々哈爾	同	同	同	同

外務省

高裁案

今般「オムスク」及「イルクノツク」ヲ除ク在西北利亞各公館在勤者ノ在勤俸及妻加俸臨時増率ヲ別表ノ通改正シ本年度十月ヨリ之ヲ實施致度仰高裁

大正八年十月十三日

備考「オムスク」及「イルクノツク」ハ既ニ本年度ヨリ總領事及領事ニ對シ四割五分副領事以下ニ對シ五割ヲ増給シ居レリ

外務省

大正八年度十月以降在勤俸、妻加俸等臨時増率

館名	改正率		舊率	
	總領事領事	副領事、官補書記生	總領事領事	副領事、官補書記生
浦潮	四割	五割	二割五分	三割
ハバロフスク	同	同	同	同
ブラゴチモンタ	同	同	同	同
ニコラエウスク	同	同	同	同
ベトロパウロタ	同	同	同	同
哈爾濱	三割五分	四割五分	同	同
齊々哈爾	同	同	同	同

外務省

大正七年五月十七日起

高裁案

三訂條約彙纂編纂ニ關スル件

去ル大正四年中諸井文書課長ヲ主腦トシテ改訂條約彙纂編纂ニ關スル委員會組織セラレ大体ノ編纂方針ヲ決定シ右方針ニ基キ編纂スヘキ條約類ノ目錄ヲ完成スルニ至リタルモ遂ニ其ノ編纂ヲ見ルニ至ラスシテ已ミタル處明治四十一年再訂條約彙纂第一編ノ編纂後明治四十四年多數諸外國トシ通商航海條約改訂セラレタルヲ始メ其他ノ諸條約ニシテ改訂又ハ新ニ締結ヲ見タルモノ尠カラサルニ之ヲ統一のニ集録セル印刷物ナキ爲執務上不便尠少ナラサルニ付今回三訂條約彙纂ヲ編纂刊行致度右編纂ノ方針ハ大体別紙ノ通トシ其詳細ハ編纂委員會ノ審議決定ニ委スルコトト致

外務省



度シ

右仰高裁

追テ右三訂條約彙纂印刷及製本ノ費用ハ條約改正調査費中製本及印刷ノ費用トシテ計上シアル費用中金四千圓也ヲ以テ大体支辨シ得ヘキ計畫ニ有之候

外務省

記

- 一 形式ハ再訂條約彙纂ノ例ヲ逐フコトトシ又再訂條約彙纂編纂以後ニ締結又ハ改訂セラレタル條約、議定書、取極書、宣言書等ニシテ既ニ效力ヲ失ヒタルモノハ附録トシテ之ヲ集録スルコト
- 二 帝國ノ參加セル萬國條約ニシテ再訂條約彙纂第二編ニ集録セラレス又ハ右編纂後ニ締結又ハ改訂セラレタルモノモ同冊中ニ之ヲ輯録スルコト
- 三 本編纂事業ハ之ヲ文書課長ノ監督ノ下ニ置キ同時ニ編纂方針ノ決定並編纂上ノ補助ヲナス爲ノ高等官若干名ヲ委員ニ任命スルコト
- 四 本編纂事業ノ主任者トシテ適當ナル人物一名ヲ高級囑託トシテ傭入レ尙係員トシテ文書課勤務本省屬官ノ外新ニ囑託二名ヲ傭入レ本編纂

外務省

事業ニ従事セシムルコト

五 支那文、露西亞文、西班牙文等ノ條約等ニ關シテハ各課ノ助力ヲ受クルコト

六 其他ノ點ニ關シテハ編纂委員ノ決定ニ委ヌルコト

外務省

別記條約彙纂編纂委員中ニ栗野事務官ヲ加ヘ度シ

外務省

6-0068

0544

大正七年五月廿五日附

通達案

幣原次官

松田	參事官
菊地	參事官
山中	書記官
大野	書記官
川島	書記官
木村	參事官

今般臨時調査部ニ於テ文書課長主任ノ下ニ條約彙纂編纂ヲ開始シ貴官等ニ於テ右編纂ニ關スル方針其他必要ノ事項ヲ審議決定セラルルコトト致慶右及通牒候也

外務省

人合送第二八號

大正七年一月三十一日

外務大臣

在外  
各大使宛

大公使不在中臨時代理大公使又ハ大公使館事務取扱タルヘキ者ノ區分並順位ニ關スル件  
公使不在中臨時代理公使ヲ命スルトキノ心方ニ關シテハ明治三十年某月大臣ヨリ該當各公館へ通達ノ次第モ有之候處其後ノ實例ニ於テハ場合ニ依リ本省ヨリ特別ノ命令ヲ以テシ或ハ請訓ニ因リテ順位者ヲ指定スル等

外務省

6-0068

0545

區々ニ互リ且其度毎ニ若干ノ往復ヲ重ネ不便不勘且其後大使館ノ設置モ有之候ニ付爾今左ノ區分並順位ニ據リ當然臨時代理大公使又ハ大公使館事務取扱タラシムルコトニ決定致候此段申進候也

臨時代理大公使

一 大使館參事官

二 大公使館書記官

三 大公使館通譯官 (通譯官ヨリ上席ノ外交官補アル) 場合ハ此ノ限ニ在ラス

大公使館事務取扱

一 外交官補

二 外務書記生 (當該國ニ於テ書記生ニ大公使館事務取扱ヲ認メ居ル場合ニ限ル)

(在墨大島公使ヘノミ左ノ追書ヲ加フ)

外務省

追テ客年十一月二十一日付公信第三〇八號ヲ以テ太田臨時代理公使ヨリ稟請相成候事務引繼ノ際ニ於ケル伊藤通譯官ノ在勤俸ニ關スル件ニ就テモ本文之趣旨ニ依ルコトニ併セテ決定致候ニ付太田臨時代理公使墨都出發ノ日ヨリ貴官着任ノ日迄ハ伊藤通譯官當然臨時代理公使タル儀ト御承知相成度此旨申添候也

外務省

公信第三〇八號

大正六年十一月二十一日

在 墨

臨時代理公使 太田爲吉印

外務大臣法學博士子爵 本野 一郎 殿

事務引繼ノ際ニ於ケル伊藤通譯官ノ在勤俸ニ關スル件

大鳥公使赴任ニ際シ本官ハ國境ニ於テ重要事務引繼度旨及稟請候處本年九月十二日附人送第四三號ヲ以テ右御許可相成致敬承候仍テ本官ハ同公使國境到着ノ時日ヲ見計ヒ相當時日ニ當地ヲ出發スヘク館務ハ前信申述候通り一時伊藤通譯官ニ引繼ク積リニ有之從テ同官ハ公使着任迄當館館務ヲ處理スルコトト可相成モ通譯官ハ特ニ命セラレタル場合ノ外臨時代

外 務 省

理公使タルヲ得サルカ如クニモ解セラルル處當地ノ物價其他各種ノ費用ハ屢次上申候通り異常ニ高騰セル爲メ館費特ニ渡切費ニ屬スヘキ支出ノ如キハ毎月甚タシキ不足ヲ生シ常ニ私金ヲ以テ補充シ居ル實際ニ鑑ミ同官ヲシテ其儘館務ヲ引受ケシムルハ設令短時日タリトモ甚タ氣ノ毒ナル事情有之候ニ付本官當地出發後大鳥公使着任迄ノ間ハ同官ニ臨時代理公使ヲ命セラレサル迄モ代理公使ノ在勤俸ヲ支給セラレ候カ又萬一如此取計ハルル上ニ何等差支モ有之候ハ他ノ支途ヨリ右ノ日數ニ對スル相當ノ手當御支出相成候様希望致候ニ付キ右御詮議相成度此段及稟請候

敬 具

外 務 省

6-0068

0547